



佐倉市

# カレッジ・インフォメーション

2016年7月1日発行 佐倉市立中央公民館 〒263-0620 佐倉市橋本町1-6-6 TEL:430-1301 FAX:430-1303

E-mail: chuo-public@city.sakura.lg.jp URL: <http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0-1.html>

## カレッジで楽しく学びましょう!

### 佐倉市民カレッジのご紹介

#### 学びは皆さんの秘密です!

佐倉市民カレッジをご存知ですか? 佐倉市が誇る4年制の市民大学です。

大学と聞くと「何か難しそう」と思われるかも知れません。しかし、心配ご無用です。一言で言えば「楽しく学べる」所です。

講師陣も大変充実していて、著名な先生方の話を聞くことができます。「4年制」の市民大学は珍しいため、毎年、国内はもとより海外からも視察団が見学に来るほど



秋のスポーツフェスティバル

です。

1年生は「仲間づくり」、2年生は「まちづくり」、3・4年生は「4コースの専攻課程」を学ぶことができます。

4コースは次ページに紹介文が載っていますのでご覧ください。各学年100名、4学年合計400名が、楽しく熱心に学んでいます。貴方も、是非カレッジと一緒に学びませんか?

なお、チャンネルさくらでもカレッジが紹介されています。

### 色々な楽しいイベント

#### 新しい仲間との(出会い)!

著名な講師の先生方による楽しい学びだけではなく、各種イベントも盛り沢山です。

例えば、上の写真は、スポーツフェスティバル、そして左は、文化祭での舞台発表の様子です。

こうした、様々な活動を通じて、仲間との交流が年間を通して行われています。

カレッジの魅力は、何と云っても、新しい仲間との「出会い」であり、新しい仲間との「学びを通じた活動」の楽しさにあります。きっと貴方の人生に新たな彩りを加えてくれるものと思います。



文化祭での舞台発表の様子

### 3 ③ 三年生よりの専門コース紹介 あつたか福祉コース

健康でいつまでも元気に楽しく暮らしたいと皆さん思っておられることと思います。福祉コースでは、健康寿命はどうすれば延ばすことができるのか、介護に必要な基礎知識や技術は何かを学ぶだけでなく、福祉制度やサービスの仕組み、さらに健康な私たちが社会に貢献できることは何かについても勉強します。

専門家の方々の講義や福祉施設の訪問・体験学習、そして国際福祉機器展での最先端機器の見学などを通じて学ぶことは、日常生活でも大いに役立ちます。

④ 四年生それぞれ約20名。学ぶにつれて思いやりの心が育まれる「あつたか福祉コース」です。



### ふるさと歴史コース

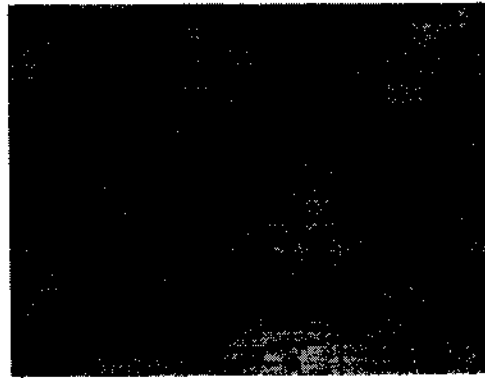


歴史コースは、毎年受講人気が高いコースです。著名な講師による教室での座学（佐倉市の歴史が中心）と現地での歴史散策（大佐倉、臼井、城址公園、成田山など）を行います。受講生は歴史好きな人が多いので、座学中は勿論、歴史探索中も講師を質問で悩ませています。

他コースと異なり、カレッジ卒業前に研究論文の発表と提出を全員がしなければなりません（論文は個人でもグループでも可）。そのため研究テーマを何にしようかというのを悩みながら授業を受けています。

他方一・二年生同様に時間外にクラス内のコミュニケーションや仲間作りは活発に行われています。

### ゆつくり元気コース



元気コースは、健康管理に必要な「病理と予防、生活習慣病対策」などの知識を学ぶ講義と、太極拳やヨガ入門など各種運動面の実践が、主要な内容となっていますが、三年生時の特徴的な授業は、「ウォークラリーコース」作成の取り組みです。

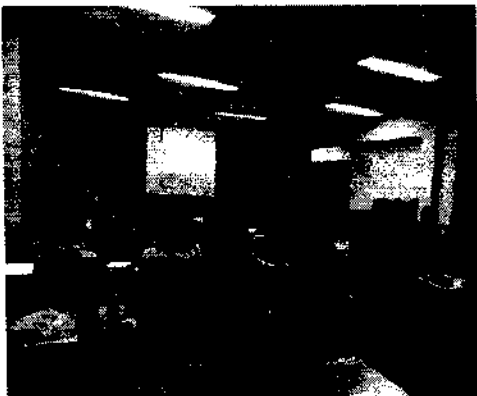
⑤ ③のグループに分かれ、それぞれ佐倉市内のどこかに自分たちが取り組む地域を定め、出発点から目標地点までのコースを作り出します。ここからが、ウォークラリーの真骨頂「コマ図作り」(写真参照)です。距離や時間を稼ぐ歩みや、名所旧跡を訪ねる散策はありますが、電柱やカーブミラー、自販機などの目印などを探って歩くのはウォークラリーだけでしよう。

### さわやか情報コース

現代の情報化社会一般の講義や情報伝達技術を学び、情報が高度化する現状を理解すると共に、郷土愛を深める事を目標にしています。更にそれを生かしカレッジ情報紙を含め各種資料を作成しカレッジ内外に発信しています。また、学外研修として、三年生では東京情報大学、広域高速ネット二九六、四年生では読売新聞社を訪問し情報化時代の最先端を見学する事により幅広い知識を身に付ける事ができます。

様々な情報が飛び交う今日、その情報をいかに自分のものとして正しく取り入れ使うかが現代人として必要と思われれます。

パソコン初心者からベテランまで楽しく学べるコースです。



# カレッジ大いに語る

## ◇市民カレッジへの希望



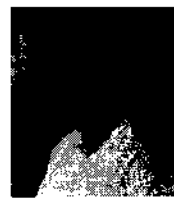
江波戸寿人  
中央公民館館長

近年の応募人数の減少や様々な事情による卒業生の減少に伴い、一人でも多くの方が、地域づくりに取り組んで頂けるよう、本年度から途中退学した年次、コースに再入学できるように、制度を改正しました。

少子高齢化が進む中、住みよい地域を具現化していくためにはカレッジの伝統を引き継ぎ、次代に繋いでいくだけでなく、一人でも多くの方が学習機会を得て、卒業後のまちづくり活動に参画いただける方を輩出できる体制づくりに取り組んでいくことが必要ではないかと考えています。

カレッジ生の皆様には、この学び舎での4年間の学習成果を活かし、健康で、生きがいを持って、様々な場面で活躍されますことを期待しています。

## ◇市民カレッジに携わって



内田儀久  
前社会教育指導員

社会教育指導員として市民カレッジに6年間携わり、昨年の3月に退任しました。

この間、みなさまから教えていただくことが多く、人間的にも幅が広がったと感謝しています。

指導員をやって良かったことといえば、みなさまと知り合いになれたことです。これからも、街で会ったら声をかけてください。声をかけあうことが、街に潤いをもたらすと思っています。

さて、人生百年時代を目指すこのごろ、高齢者は「学び続ける」スタイルをつくっていかなければ、時間を持て余すようになってしまわうでしょう。

佐倉市には、いくつかの高齢者大学がありますから、カレッジ卒業後は、どうぞご参加ください。

## ◇市民カレッジへの思い



平田 譲  
22期卒業生

在校時に多くの仲間と知り合う事が出来たこと、三年生からの専門コースでは目標に向かって、仲間が力と心を合わせて学習し、更なる信頼が深まりました。

最近の入学希望定員割れに関しては定年延長とPR不足が大きくな要因。現役、卒業生含めほとんどが、カレッジ生活の楽しさや充実した生活を話しています。広報での募集も頻度を多くして行う事は勿論、同窓会組織を活用し、会員向けの情報誌の発行を促し、その中で告知し先輩からの推薦を積極的にお願いするような、施策が必要だと考えます。

専門コースは、卒業後、社会で役に立つ程度の実力をめざすカリキュラムにするべきと思います。

## 佐倉市民アンケート調査結果

8月23日、京成佐倉駅・ユカリが丘駅で、情報コース生徒による市内住民を相手にカレッジ大学についての意識調査を実施しました。

20代から70代の男性42人、女性49人、計91人のアンケートを集計しました。カレッジ大学を「知っている」は51人、「知らない」人は40人。その中で「入ってみたい」は17人、「入らない」39人、「わからない」は35人でした。その結果、知っている人が多いにもかかわらず、「入らない」、「わからない」人がたくさんおりました。

市民カレッジの良さをもっと、知らせていくことが必要ではないかと思われました。



今年度着任された職員の方の  
レッジへの思いをご紹介させてい  
ただきます。(インタビュー順)

石井喜広さん(指導員)



現在佐倉地区にお住まい。テニ  
スなど運動が好きだが、ゴルフ等  
の観戦が主とのこと。校長を退職  
後、社会教育指導員となり、現在  
一年2組と三・四年生のふるさと  
歴史コースを担当されている。

カレッジ生は、自分だけ学べば  
良いとの姿勢ではなく、友達作り  
や共に学ぶなど積極的で良い印象  
を持っているとお褒めの言葉。

今年度入学者がやや減ったのは、  
金曜日コースだった特殊性で一時的  
な現象ではないかと分析をされて  
いた。

教え子の様々な分野での活躍が  
嬉しそう。生徒が問題を抱えたと  
き本人に解決させることが大切、  
教師は支援者の役割と述べられ、  
お人柄がうかがわれた。

渡部由美子さん(補佐員)



健康管理センターでの勤務を経  
て現在の職場へ。

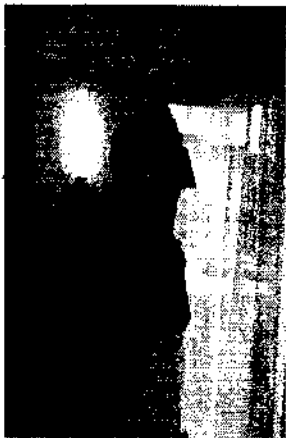
カレッジ生は、仕事等を退かれ  
た後にもなお学ぶ姿勢と意欲に好  
感を持てると話してくださいました。

そんなカレッジ生の姿勢がカレ  
ッジの発展につながるのではと。  
同時にカレッジ加入へのポスター  
掲示の回数を増やすなどの活動も  
良いのではと勧める。

グループで料理作りやママさん  
バレーボールを楽しんでいるとの  
こと。若々しさが印象的な方です。

福原沙弥子さん(職員)

4月に大学を卒業し中央公民館  
が初めての勤務。



人々の生活支援や生涯教育関係  
に関わる仕事をしたかったため、  
社会教育主事任用の資格を得た。  
また、大学時代からフラムメンコを  
しており、現在も休日には練習に  
励んでいる。

カレッジ生は心身ともに元気で、  
目が輝いている。カレッジの活動  
だけにとどまらず、地域の中での  
パイプ役になってほしい。自分も  
カレッジ生を見習い、視野を広げ、  
社会人としてがんばっていきたく  
いと述べられていた。

これからのカレッジ、そして将  
来の佐倉市の担い手として期待で  
きる方です。

大槻泰之さん(職員)

楽しく仕事をすることをモット  
ーにしており、職場は主に広報課  
と公民館を行ったり来たりしてき  
たとのこと。趣味は時代劇やSF  
映画の観賞。

カレッジ生の印象は、前回勤務  
した時も今回も輝いていると感じ  
る。それは現役時代の肩書を外し  
て新しいことにチャレンジしてい  
るからではないかと述べられる。

皆さんにはたくさん生きがい  
を見つけていただき、その中の一  
つに地域活動を加えてほしいと希

望される。カレッジの発展は、時  
代に合ったカリキュラムを取り入  
れて魅力的な大学にしていこうと。  
また、さわやか情報コースを担当  
し、コミュニケーションを大切に  
したいと意欲を語られた。



編集後記

今年の情報誌の編集方針は「市  
民カレッジの発展をどうするか」  
をメインに決めました。

一面は明るく「カレッジで楽し  
く学びましょう!」と呼びかけ、  
二面は、三・四年生で学ぶ専攻コ  
ースの魅力を掲載しました。

館長・元指導員・OBの方の寄  
稿や新任職員の皆様のインタビュー  
を通じてカレッジへの思いやご  
意見も掲載できました。市民カレ  
ッジの認知度を高めるため、街頭ア  
ンケートも全員で行いました。

私は「出来ない出来ない」と言  
いながらもクラスの皆さんに助け  
られ微力ながら編集長を務めさせ  
ていただきました。(松下記)